



# 2023年3月期第2四半期 決算説明会

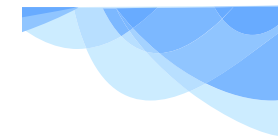
代表取締役 社長執行役員 森 拓也

2022年12月1日



# 目次

---



1. 2023年3月期第2四半期 決算概要	P. 2
2. 2023年3月期 業績予想	P. 13
3. 中期経営計画2022	P. 16
Appendix ご参考	P. 22



# 1. 2023年3月期第2四半期 決算概要

# 2023年3月期第2四半期 トピックス

## コロナ禍からの経済社会活動の正常化により、建設投資は前年度を上回る水準に

- 2022年度建設投資額は、前年度比3.6%増の63兆4,500億円と予測
  - 政府建設投資額は前年度比1.7%増の23兆3,300億円と予測
  - 民間建設投資額のうち住宅投資額は前年比3.0%増の16兆5,700億円、非住宅投資額は前年度比7.3%増の17兆3,400億円と予測
- 政府は、第2次補正予算「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」として23年度分予算として国費1兆5,341億円を計上

出典：「建設経済モデルによる建設投資の見通し」  
(一財)建設経済研究所10月発刊

## 売上高、利益は前年同期比で減少となったものの、各利益項目は期初計画より大幅に増加

- 売上高は、土木事業は新設鉄道工事の完成、設計変更獲得等により期初計画から増加、建築事業は繰越高及び手持工事の進捗遅れ等により減少し、全体では期初計画より微減
  - 期初計画比△1.0%の微減、前年度比△11.6%の減少
- 売上総利益率は、新設鉄道工事の完成による利益増加、設計変更獲得や採算性の向上等により全体で1.5ポイントの改善
  - 期初計画：13.3%→実績：14.8%
  - 土木事業の利益率は期初計画よりも2.4ポイント上昇し18.5%、建築事業の利益率は7.1%と0.6ポイント低下
- 各利益項目は期初計画比で大きく改善し、四半期純利益が14億97百万円となる
  - 期初計画比増加率：売上総利益+10.1%、営業利益+53.2%、経常利益+52.5%、四半期純利益+49.8%

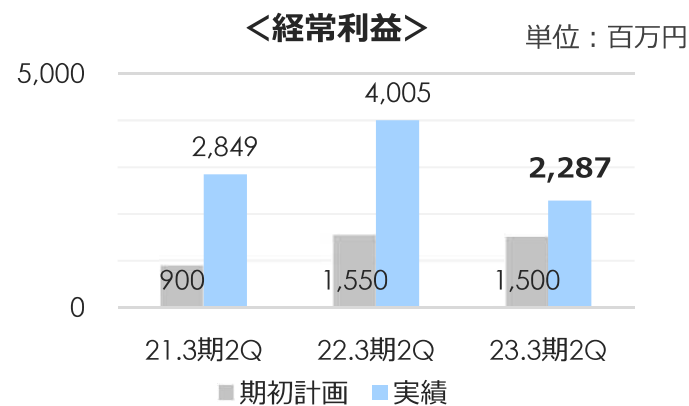
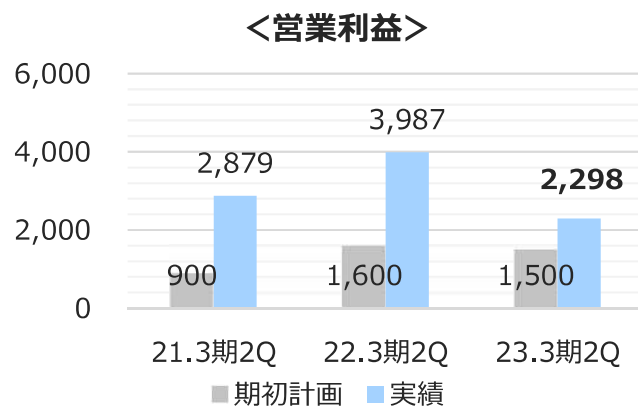
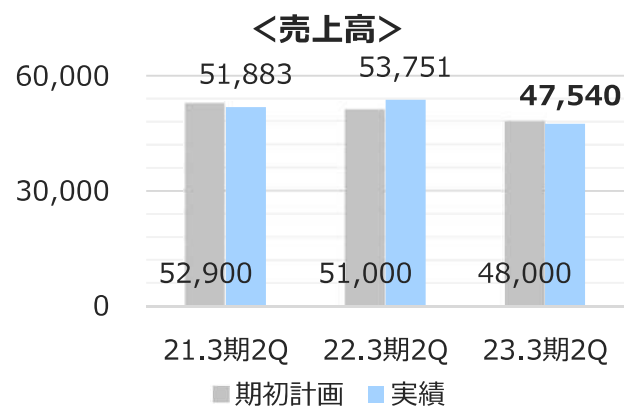
## サステナビリティ推進室の設置、生産性向上に向けた取り組み

- 2022年4月に「サステナビリティ推進室」を設置
  - 社会・環境問題をはじめとするサステナビリティを巡る課題を理解し、事業活動を通じてそれらの課題を解決するために、2022年4月よりサステナビリティ推進室を設置し、サステナビリティ推進体制の2023年4月移行に向けた準備・検討を開始
  - カーボンニュートラルに向けたGHG削減策の検討及び気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）の枠組みに基づいた開示情報の整備を目指す活動を継続
- PSMAXで2件の開発技術を現場にて実装（P29ご参照）
  - 「スマホde緊張」はスマートフォンを用いて、PC横締め現場緊張管理作業を合理化・生産性の向上を図る
  - 「PCaPC床版自動設計製図システム」は、大規模更新事業の床版取替設計業務の生産性向上のため、PCaPC床版の形状を自動決定し、図面化するシステムをJIPテクノサイエンス（株）と共同開発。現在、受注工事で使用中

# 業績サマリー

## 連結業績サマリー

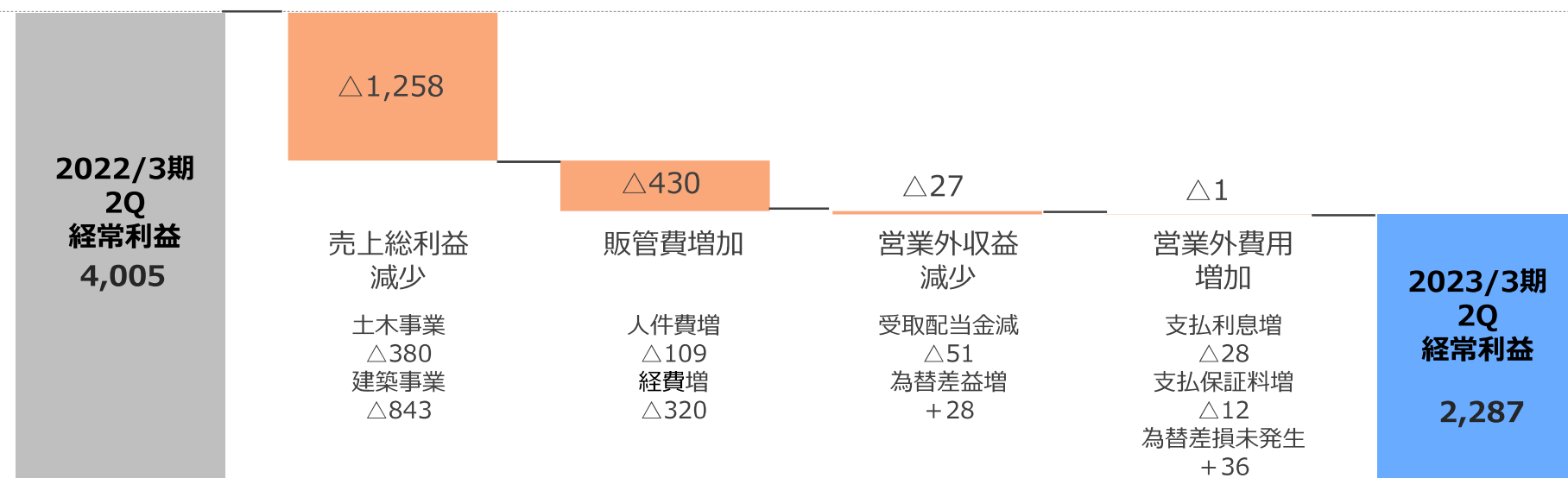
(単位：百万円、%)	21.3期2Q		22.3期2Q		23.3期2Q			コメント
	実績	前年比	実績	前年比	実績	前年比	期初計画比	
売上高	51,883	8.6	53,751	3.6	47,540	△11.6	△1.0	設計変更獲得はあるものの、建築工事の進捗遅れ等により前期比減収、期初計画比微減
売上総利益	7,233	9.8	8,303	14.8	7,044	△15.2	10.1	大規模プロジェクトの終了により前期比減。ただし、土木工事の利益増加により期初計画比で増益
営業利益	2,879	25.8	3,987	38.5	2,298	△42.4	53.2	上記により前期比減益、期初計画比で増収
経常利益	2,849	26.7	4,005	40.6	2,287	△42.9	52.5	
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,844	25.4	2,847	54.4	1,497	△47.4	49.8	
1株当たり年間配当金 (円)	26.0		30.0		30.0 (予想)			



# 利益増減分析（前年同期比）

## 経常利益増減分析

（単位：百万円）

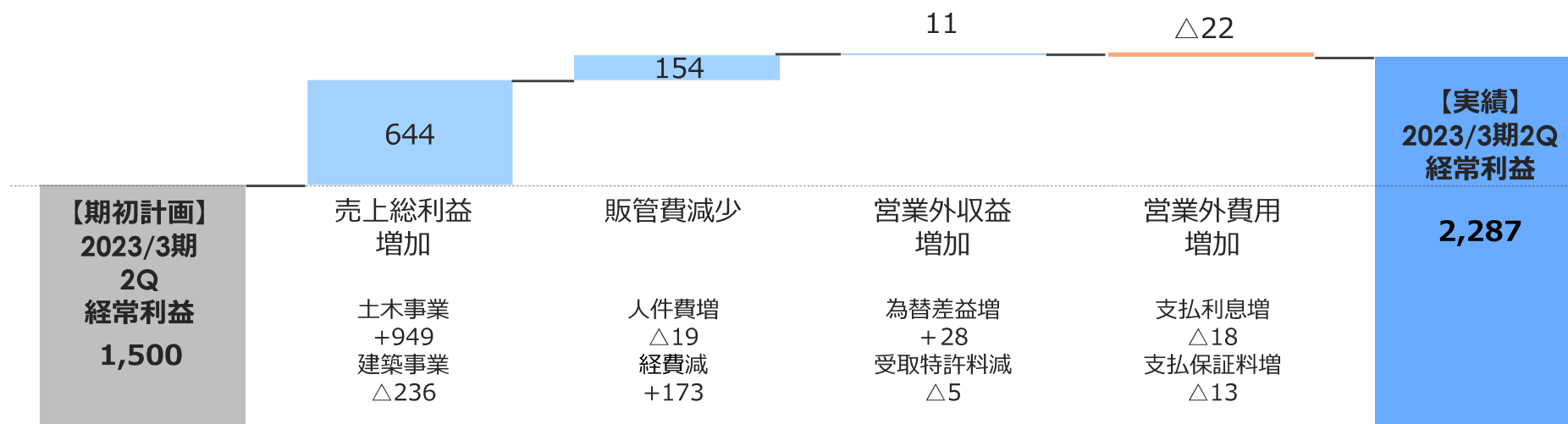


- 売上総利益は、設計変更獲得等があるも前期比12億58百万円減少し、利益率も15.4%から14.8%に0.6%低下
  - 土木事業は、大型鉄道工事の工事完成による利益増加があるものの、設計変更獲得額が前期比より減少
  - 建築事業は、売上高の減収と、手持ち工事の低採算案件により売上総利益の減少
- 販管費は、前期比4億30百万円増加
  - 従業員の処遇改善等の実施により人件費が増加、コロナ禍からの制限緩和により出張旅費、交際費等の支出増
- 営業外収益が27百万円減少
  - 円安影響により為替差益を計上したものの、受取配当金が減少
- 営業外費用が1百万円増加
  - 前期の為替差損がなくなったものの、支払利息及び支払保証料の増加あり

# 利益増減分析（期初計画比）

## 経常利益増減分析

（単位：百万円）



- 売上総利益は、6億44百万円増加、売上総利益率は13.3%から14.8%と1.5%アップ
  - 土木事業は、新設鉄道工事の完成による利益増加や原価低減等により売上総利益が9億49百万円増加し、利益率が16.1%から18.5%と2.4%アップ
  - 建築事業は、繰越工事の減少、低採算案件の進捗等により売上総利益が2億36百万円減少し、利益率は7.7%から7.1%に0.6%ダウン
- 販管費が期初計画比1億54百万円減少
  - 人件費が微増となるも、出張旅費の計画比支出減や経費の支出期ずれによる減少額が上回る
- 営業外収益が期初計画比11百万円増加
  - 円安影響により為替差益を計上
- 営業外費用が期初計画比22百万円増加
  - 支払利息及び支払保証料の増加

# セグメント別業績

## セグメント別売上高・売上総利益・受注高

(単位：百万円、%)		21.3期2Q	22.3期2Q	23.3期2Q		コメント
		実績	実績	実績	前年比	
売上高	土木事業	32,197	33,975	31,397	△7.6	<ul style="list-style-type: none"> <li>土木事業は、設計変更獲得額の前期比減が影響し減</li> <li>建築事業は、繰越高の減少、手持工事の進捗遅れ等により減収</li> <li>製造事業は、外部売上案件増により増加</li> </ul>
	建築事業	18,590	18,839	15,008	△20.3	
	製造事業	731	630	805	27.7	
	その他兼業事業	363	305	329	7.8	
	合計	51,883	53,751	47,540	△11.6	
売上総利益	土木事業	5,160	6,179	5,799	△6.2	<ul style="list-style-type: none"> <li>土木事業は、完成工事の原価改善及び設計変更獲得等による増加はあるものの、前期比減</li> <li>建築事業は、低採算工事の進捗等により減少</li> <li>製造事業の売上総利益は、低採算案件により減</li> </ul>
	建築事業	1,898	1,907	1,063	△44.2	
	製造事業	26	62	16	△74.1	
	その他兼業事業	148	154	165	7.2	
	合計	7,233	8,303	7,044	△15.2	
受注高	土木事業	37,562	41,977	33,220	△20.9	<ul style="list-style-type: none"> <li>土木事業は、大型大規模更新工事の期ズレ及び設計変更の期ズレ等により減少</li> <li>建築事業は、製品受注及び新規顧客への取り組みなどで大幅増加</li> <li>製造事業は、外部受注案件増による増加</li> </ul>
	建築事業	17,499	13,751	19,592	42.5	
	製造事業	731	630	805	27.7	
	その他兼業事業	363	305	331	8.6	
	合計	56,157	56,664	53,950	△4.8	

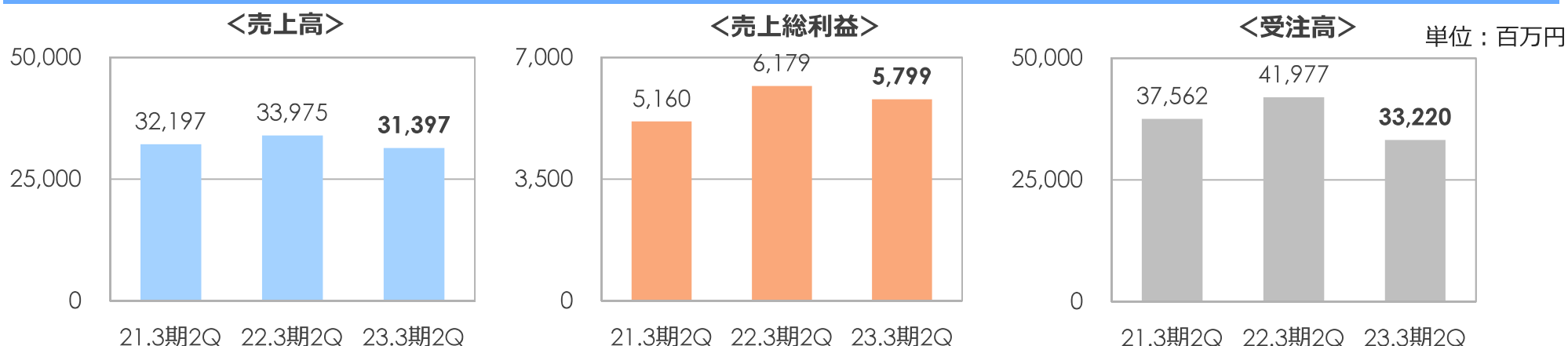


# 土木事業

## 業界環境

- 土木の2022年度建設投資額（名目値）は、前年度比1.8%減の23兆5,900億円の見通し（国交省「令和4年度建設投資見通し」）
  - 政府土木投資額は、前年度比3.6%減の16兆4,800億円の見通し
- PC市場は、3,216億円の見通し。補修・補強は前年度より減少しているが、高水準な発注を維持する見通し

## 業績推移



- 新設鉄道工事の完成及び大規模更新事業の設計変更獲得、原価改善等を実践するも、売上高、売上総利益ともに前期比減少
  - 大規模プロジェクトのあった前期との比較では減収減益
- 受注高は、大型新設橋梁の受注があるものの、大規模更新案件や設計変更の期ズレ等により減少、10月に大型大規模更新案件2件を受注
  - 上期受注割合（個別）：新設橋梁 57.1%、大規模更新・修繕 14.0% ※10月時点 新設橋梁 33.5%、大規模更新・修繕 49.7%

大型受注案件（受注金額上位3件）

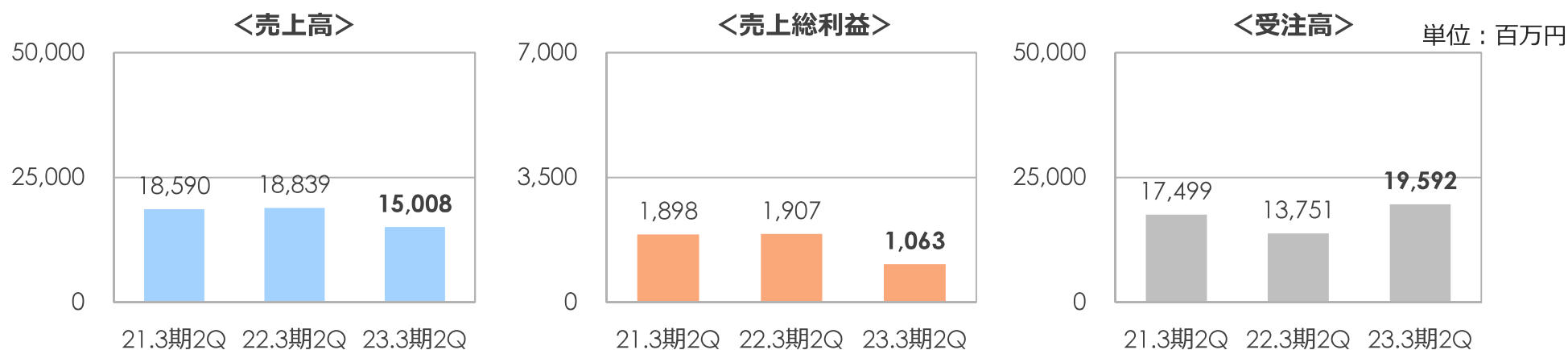
工事名	工事概要
東海環状自動車道 政田第三高架橋他2橋(PC上部工)工事	【新設橋梁】政田第三：6径間連結コンポ橋 L=228m、W=10.75m 政田第四：6径間連結コンポ橋 L=224m、W=10.75m 政田第五：3径間連続箱桁橋 L=175m、W=10.75m
東海環状自動車道 七崎高架橋(PC上部工)工事	【新設橋梁】七崎高架橋BR-3 6Sコンポ橋（内回り） L=208.8m 七崎高架橋BR-2 6Sコンポ橋（内回り） L=203.2m 七崎高架橋BR-1 6Sコンポ橋（内回り） L=196m
新名神高速道路 城陽第二高架橋西(PC上部工)工事	【設計変更】6車線化に係る拡幅工事（上下線：5径間連続橋（鋼・PC混合桁+プレキャストセグメント箱桁）他

# 建築事業

## 業界環境

- 建築の2022年度建設投資額（名目値）は、前年度比5.1%増の43兆4,000億円の見通し（国交省「令和4年度建設投資見通し」）
  - － 民間非住宅建築投資額は、前年度比2.0%増の15兆7,600億円の見通し

## 業績推移



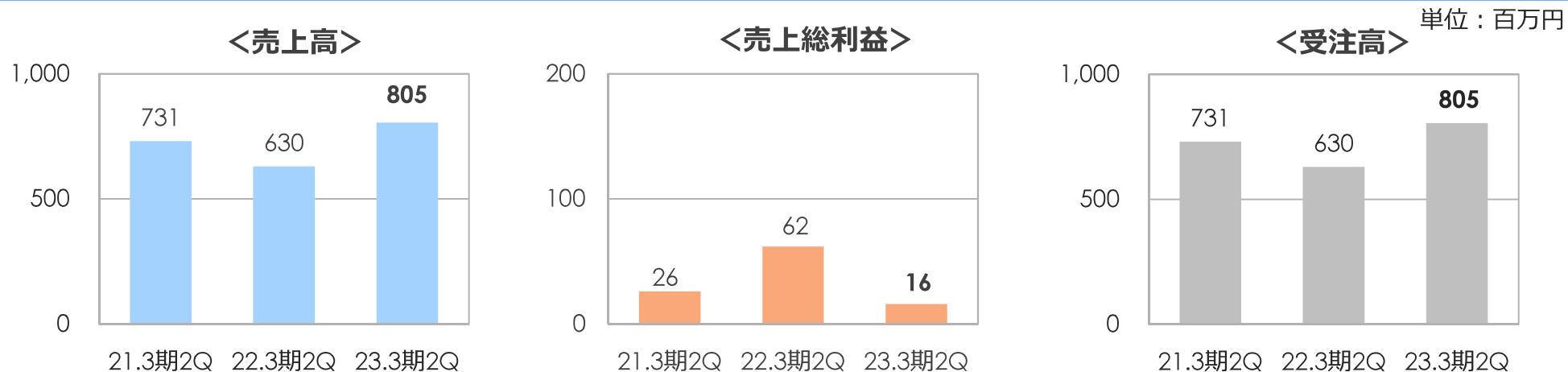
- 繰越案件のうち低採算案件の進捗により、売上高、売上総利益ともに前期比減
  - － 売上高は繰越工事の減少及び手持工事の進捗遅れ等により減収、売上総利益は低採算案件の進捗等により利益率低下（10.1%→7.1%）
- 受注に関しては、引き続き競争激化の渦中にあるものの、大型製品の受注獲得、新規顧客への取り込み等により前年実績及び期初計画から増加
  - － 前期実績比 + 5,841百万円、期初計画比 + 1,392百万円

大型受注案件（受注金額上位3件）

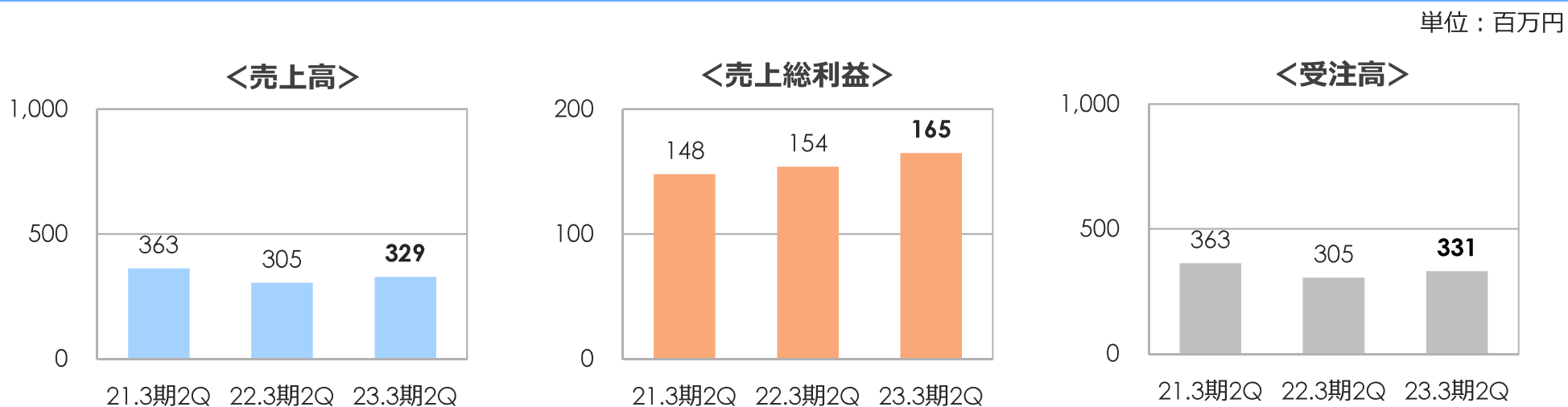
工事名	工事概要
某工場新築工事に伴う部材製作	PCaPC工法による大型工場建設の製品供給
某倉庫建設工事	S造1階建、倉庫4棟、事務所棟
某倉庫増築工事	S造2階建、物流倉庫(冷蔵庫、冷凍庫)

# 製造事業及びその他兼業事業

## 製造事業 - 業績推移



## その他兼業事業 - 業績推移



# 貸借対照表

## 連結貸借対照表の主な項目

(単位：百万円)	21.3期	22.3期	23.3期2Q		コメント
	①実績	②実績	③実績	増減 (③-②)	
資産合計	95,423	93,100	90,905	△2,195	
流動資産	73,704	70,746	67,628	△3,118	<ul style="list-style-type: none"> <li>・買掛債務の支払、借入金の返済等により現金預金が1,470百万円減少</li> <li>・工事代金の入金等により、受取手形、完成工事未収入金及び契約資産等が2,064百万円減少</li> </ul>
現金預金	10,456	9,947	8,476	△1,470	
受取手形・完成工事未収金等	54,861	—	—	—	
受取手形・完成工事未収入金及び契約資産等	—	53,082	51,018	△2,064	
固定資産	21,719	22,354	23,276	922	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リース資産等の新規購入、工場設備の更新等により有形固定資産が624百万円増加</li> <li>・繰延税金資産の取り崩し181百万円等の減少よりも、長期差入保証金450百万円等の増加が上回り投資その他の資産が307百万円増加</li> </ul>
有形固定資産	14,126	14,929	15,553	624	
無形固定資産	136	119	109	△9	
投資その他の資産	7,456	7,305	7,613	307	
負債合計	53,206	47,567	45,393	△2,173	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工事進捗に伴う買掛債務の支払等により、支払手形・工事未払金等が3,402百万円、電子記録債務が2,393百万円それぞれ減少</li> <li>・資金需要の増加、売掛債権の回収期間長期化により短期借入金が4,466百万円増加</li> <li>・未払金、未払消費税の取り崩し等によりその他流動負債が1,338百万円減少</li> </ul>
流動負債	43,378	37,369	34,759	△2,610	
短期借入金	6,616	6,008	10,474	4,466	
固定負債	9,828	10,197	10,634	436	
長期借入金	4,000	4,000	4,000	—	
純資産合計	42,216	45,533	45,511	△21	<ul style="list-style-type: none"> <li>・親会社株主に帰属する四半期純利益1,497百万円を計上、配当金1,421百万円を支出</li> <li>・円安傾向の継続により、為替換算調整勘定が119百万円増加</li> </ul>
株主資本	39,536	42,938	42,808	△129	
その他包括利益累計額	2,679	2,594	2,701	107	
負債純資産合計	95,423	93,100	90,905	△2,195	

# キャッシュ・フロー

## 連結キャッシュ・フローの主な項目

(単位：百万円)	21.3期2Q	22.3期2Q	23.3期2Q	コメント
	実績	実績	実績	
営業活動によるキャッシュ・フロー	△1,728	6,152	△2,973	
税金等調整前当期純利益	2,805	4,038	2,291	
減価償却費	345	364	435	
退職給付に係る資産の増減	53	△44	△31	・営業収益の積み上げ
退職給付に係る負債の増減	110	95	161	<増加要因>
工事損失引当金増減	17	△129	△43	・工事代金入金による売上債権及び契約資産の減少
売上債権及び契約資産の増減（△は増加）	△5,029	6,929	2,306	<減少要因>
たな卸資産の増減（△は増加）	△3,442	269	△194	・工事進捗に伴う仕入債務の減少
仕入債務の増減（△は減少）	1,106	△355	△5,823	・未払金及び預り金等の支払によるその他営業活動フローの減少
未成工事受入金の増減	1,465	△3,519	—	・法人税の支払による法人税等支払額の減少
契約負債の増減	—	2,899	248	
その他営業活動フロー	1,145	△2,230	△1,799	
法人税等支払額	△305	△2,165	△525	
投資活動によるキャッシュ・フロー	△390	△446	△1,246	
有形固定資産取得	△419	△489	△826	・建物・構築物、工事用機械更新等による有形固定資産の取得
その他投資活動フロー	28	42	△420	
財務活動によるキャッシュ・フロー	△4,870	△6,578	2,736	
短期借入金純増減	△3,890	△5,300	4,465	
リース債務返済による支出	△23	△37	△63	・短期借入金の増加
自己株式の取得による支出	△0	△0	△235	・配当金の支払
配当金支払額	△947	△1,232	△1,421	
その他財務活動フロー	△8	△9	△8	
現金及び現金同等物期末残高	8,493	9,588	8,476	

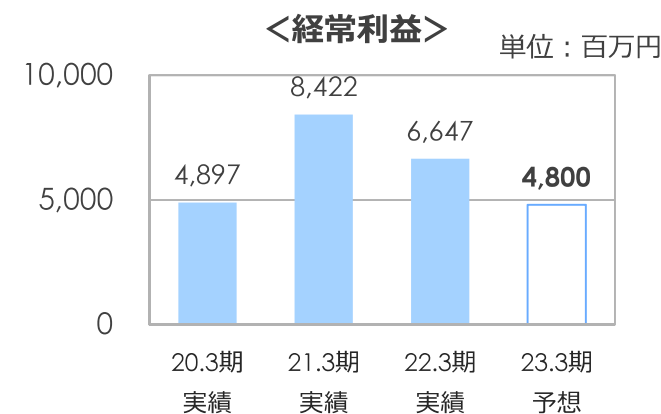
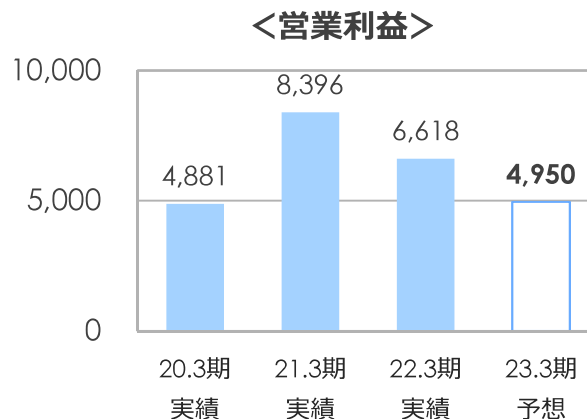
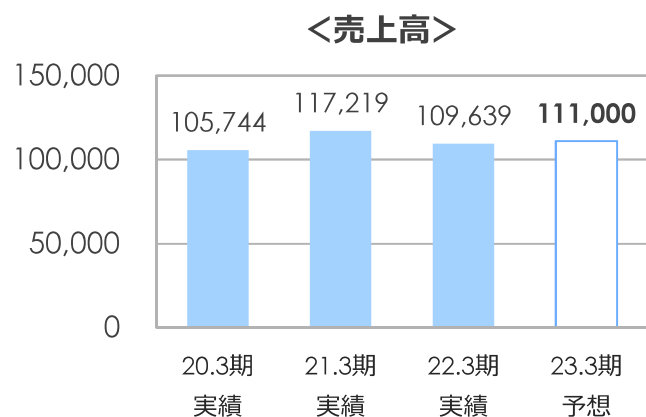


## 2. 2023年3月期 業績予想

# 業績予想

## 連結業績予想

(単位：百万円、%)	20.3期		21.3期		22.3期		23.3期		コメント
	実績	前年比	実績	前年比	実績	前年比	予想	前年比	
売上高	105,744	△4.1	117,219	10.9	109,639	△6.5	111,000	1.2	土木及び建築事業ともに前年度と同程度
売上総利益	14,377	△20.4	17,632	22.6	15,766	△10.6	14,750	△6.4	土木事業で設計変更獲得を見込むも大規模プロジェクトの終了により前期比で減
営業利益	4,881	△44.2	8,396	72.0	6,618	△21.2	4,950	△25.2	販管費の増加を見込み減少
経常利益	4,897	△44.3	8,422	72.0	6,647	△21.1	4,800	△27.8	
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,214	△59.4	5,592	74.0	4,539	△18.8	3,200	△29.5	
1株当たり年間配当金 (円)	20.0		26.0		30.0		30.0		配当性向40%以上を予定



# セグメント別業績予想

## セグメント別売上高・売上総利益・受注高

(単位：百万円、%)	20.3期	21.3期	22.3期	23.3期		コメント	
	実績	実績	実績	予想	前年比		
売上高	土木事業	63,637	73,916	67,550	68,300	1.1	<ul style="list-style-type: none"> <li>土木事業は、繰越工事高の増加、手持工事の順調な進捗を見込み増収</li> <li>建築事業は、繰越工事高の減少により微減</li> </ul>
	建築事業	39,431	41,005	40,160	40,000	△0.4	
	製造事業	1,875	1,529	1,374	1,900	38.2	
	その他兼業事業	799	768	554	800	44.3	
	合計	105,744	117,219	109,639	111,000	1.2	
売上総利益	土木事業	9,938	13,398	11,856	10,750	△9.3	<ul style="list-style-type: none"> <li>土木事業は、設計変更を見込むも大規模プロジェクトの終了により前期比で減</li> <li>建築事業は、低採算の手持工事の進捗などで減</li> </ul>
	建築事業	3,916	3,919	3,635	3,550	△2.4	
	製造事業	211	75	73	150	103.2	
	その他兼業事業	311	239	200	300	49.9	
	合計	14,377	17,632	15,766	14,750	△6.4	
受注高	土木事業	73,004	80,221	77,799	68,000	△12.6	<ul style="list-style-type: none"> <li>土木事業は、大規模更新・修繕工事の応札工事の選別を進める</li> <li>建築事業は、官公庁案件獲得、エリア展開を進めることにより受注強化を図り増加</li> </ul>
	建築事業	41,311	43,887	32,859	42,500	29.3	
	製造事業	1,875	1,529	1,374	1,700	23.7	
	その他兼業事業	812	768	554	800	44.3	
	合計	117,003	126,407	112,588	113,000	0.4	





### 3. 中期経営計画2022の進捗

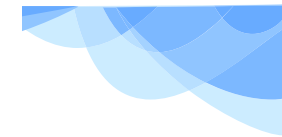
# 中期経営計画2022の進捗

## 数値目標について

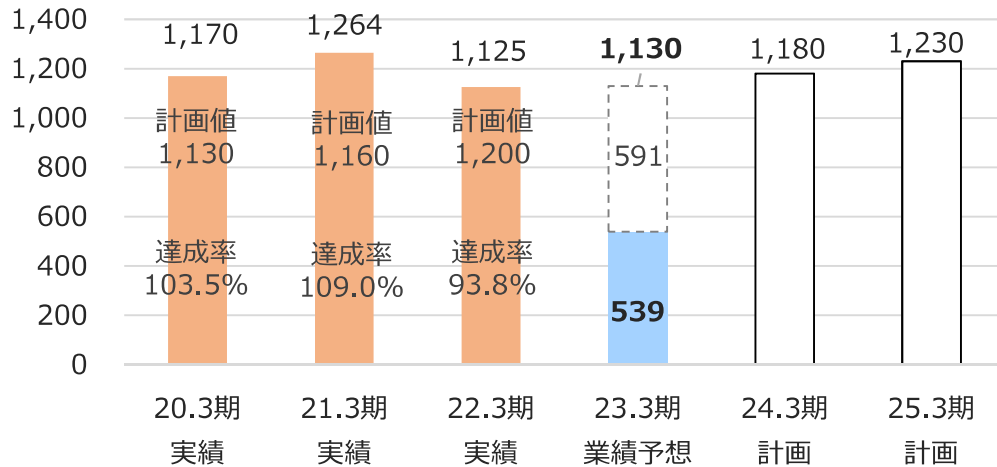
(単位：百万円)

		23.3期 業績予想	24.3期 中計目標	25.3期 中計目標
受注	土木事業	68,000	72,400	75,100
	建築事業	42,500	43,000	45,000
	製造事業	1,700	1,700	1,800
	兼業事業	800	900	1,100
	合計	113,000	118,000	123,000
売上高	土木事業	68,300	69,400	73,100
	建築事業	40,000	42,000	45,000
	製造事業	1,900	1,700	1,800
	兼業事業	800	900	1,100
	合計	111,000	114,000	121,000
売上 総利益	土木事業	15.7% 10,750	16.7% 11,600	17.1% 12,500
	建築事業	8.9% 3,550	9.0% 3,800	10.0% 4,500
	製造事業	7.9% 150	11.8% 200	11.1% 200
	兼業事業	37.5% 300	33.3% 300	27.3% 300
	合計	13.3% 14,750	13.9% 15,900	14.5% 17,500
販売費及び一般管理費		8.8% 9,800	8.8% 10,000	8.4% 10,200
営業利益		4.5% 4,950	5.2% 5,900	6.0% 7,300
経常利益		4.3% 4,800	5.4% 6,100	6.1% 7,400
当期純利益		2.9% 3,200	3.6% 4,100	4.0% 4,900

# 中期経営計画2022の進捗

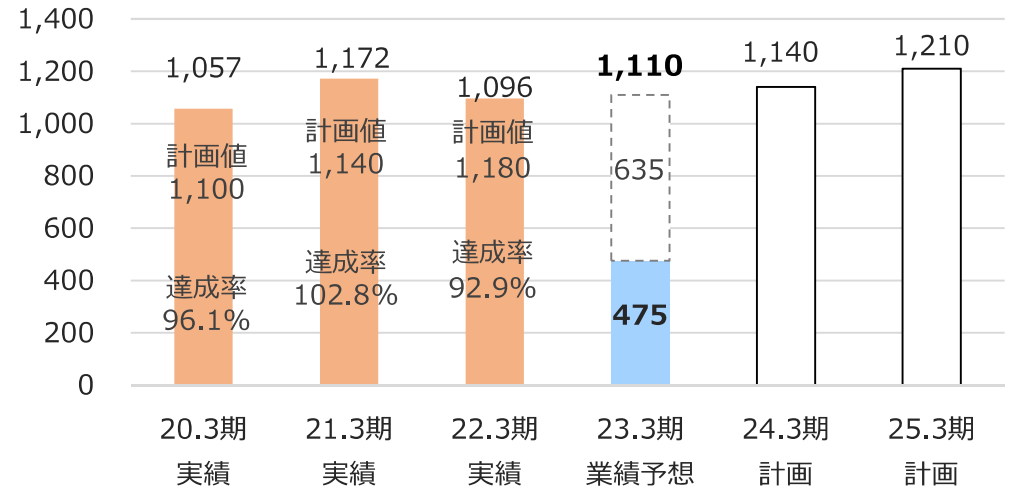


## <受注>

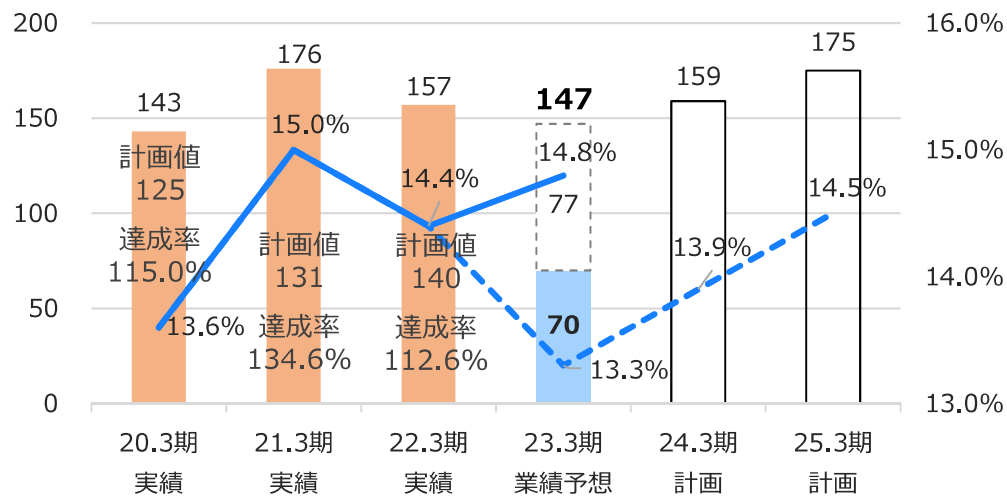


## <売上>

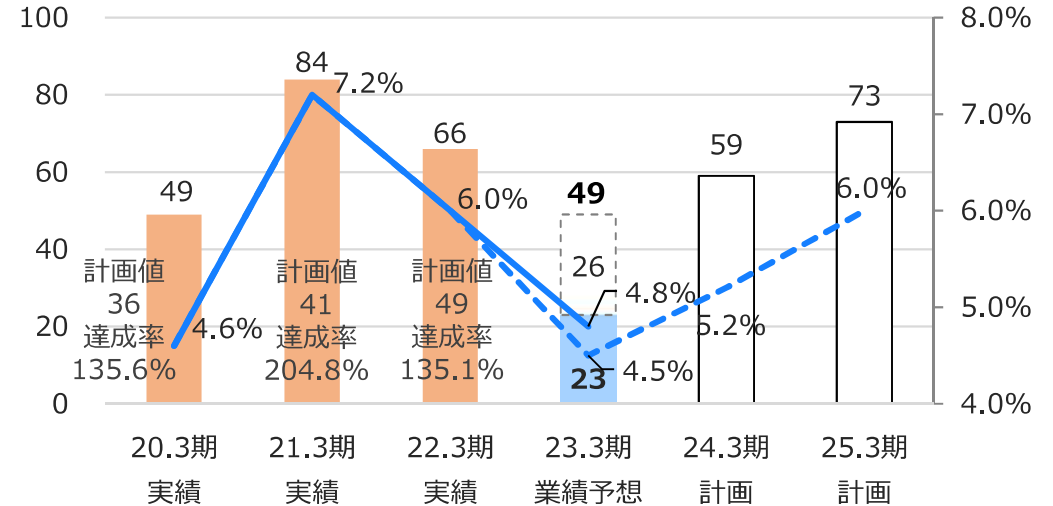
単位：億円



## <売上総利益>



## <営業利益>



□ 予想 ■ 実績 — 売上総利益率 - - - 売上総利益率 (予想)

□ 予想 ■ 実績 — 営業利益率 - - - 営業利益率 (予想)

# 主要テーマの進捗状況

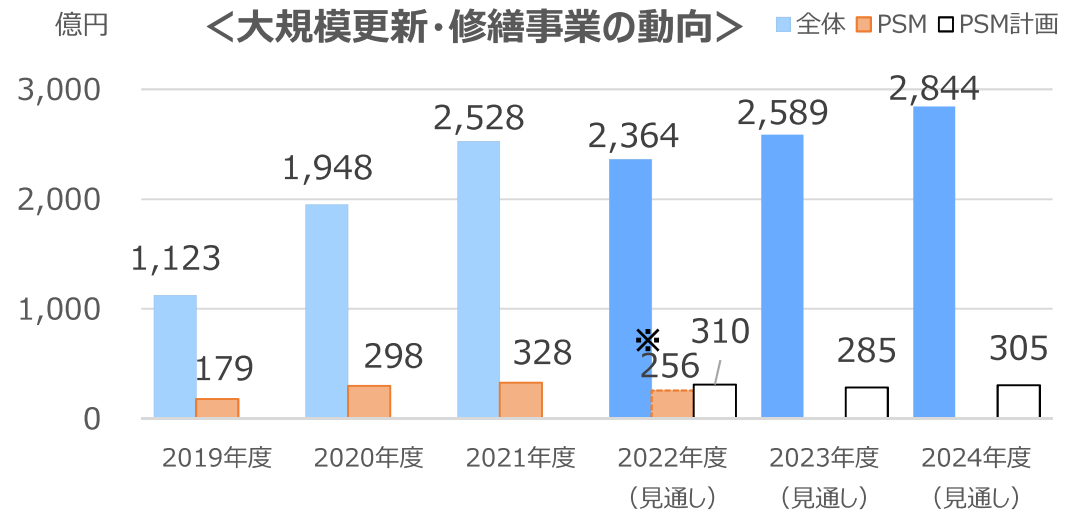
※上期実績

## 大規模更新・修繕工事を主力事業として発展・成長させる

- NEXCOをはじめとする高速道路会社からの大規模更新・修繕事業は、一部の発注遅れが見られるものの高水準な発注を維持する見込み
    - 今後も、当面は安定した事業量が見込める中、当社の受注もトップシェアを争う位置を継続。
    - 2023年3月期通期は、310億の受注を見込む
- ※：10月末時点の受注額を示す。

(10月受注の本谷橋と豊川橋等の受注を含む。)

工事名 (発注者)	工事概要
東北自動車道 苗代沢橋床版取替工事 (NEXCO東日本)	床版取替 (2,800m <sup>2</sup> )



## 東海環状自動車道の新設橋梁で複数物件の受注獲得

- 大規模更新事業のみならず、新設橋梁の東海環状自動車道の4案件で総延長2,644mを2024年度の開通に向け鋭意設計・施工中

工事名	工事概要
政田第三高架橋他2橋(PC上部工)工事	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 政田第三高架橋 PC 6径間連結コンポ橋 橋長228m</li> <li>● 政田第四高架橋 PC 6径間連結コンポ橋 橋長224m</li> <li>● 政田第五高架橋 PC 3径間連続箱桁橋 橋長175m</li> </ul>
七五三第二高架橋(PC上部工)工事	● PC15径間連続箱桁橋 橋長555m
七崎高架橋(PC上部工)工事	● PC6+6+6径間連結コンポ橋 橋長608m
上保高架橋(PC上部工)工事	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 上保第一高架橋 (外回り) PC 6径間連結コンポ橋 橋長202.5m</li> <li>● 上保第二高架橋 (外回り) PC 3径間連結コンポ橋 橋長99.0m</li> <li>● 上保第三高架橋 (外・内回り一体) PC 3径間連結コンポ橋 橋長98.5m</li> <li>● 上保第四高架橋 (外回り) PC 8径間連続2主版桁橋 橋長227.0m</li> <li>● 上保第四高架橋 (内回り) PC 7径間連続(2主版桁+箱桁)橋 橋長227.4m</li> </ul>



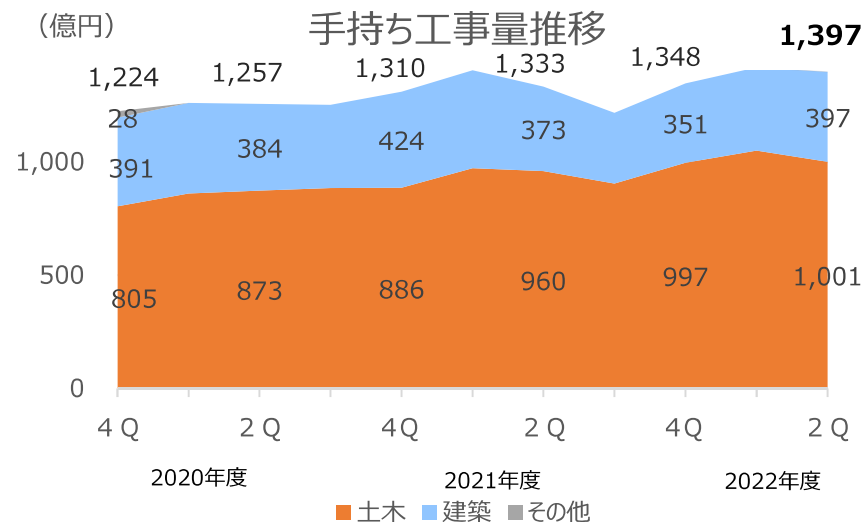
# 主要テーマの進捗状況

## 工期の長い大規模更新事業の工事量が豊富、手持ち工事量は、順調に積み増し

- 手持ち工事量は、土木事業の大規模更新事業を主軸に積み増し

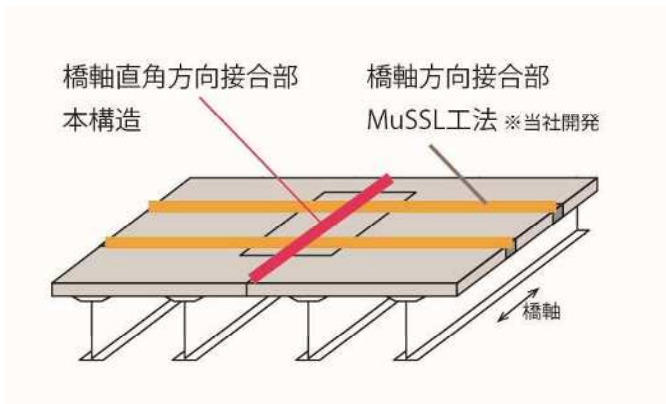
大型繰越工事

工事名（発注者）	工期
東名高速道路 大井川橋床版取替工事 (NEXCO中日本)	2021年4月～2027年12月
新名神高速道路 信楽川橋 (NEXCO西日本)	2020年11月～2025年3月
新名神高速道路 城陽第二高架橋東 (NEXCO西日本)	2019年10月～2024年4月



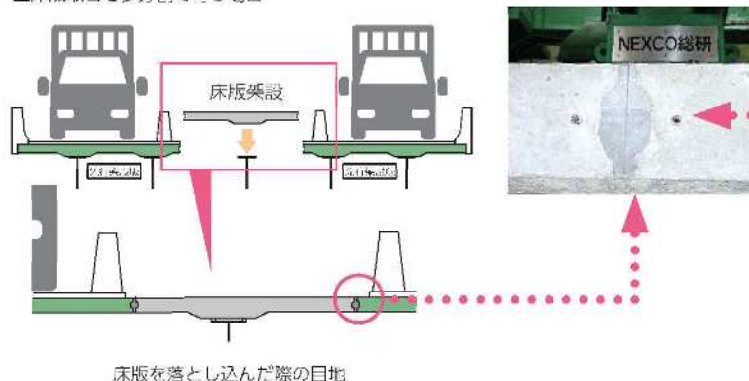
## 大規模更新・修繕工事の新たな技術を開発

- NEXCOをはじめとする高速道路会社で進めている大規模更新・修繕事業の都市部（重交通路線）での受注に向けて、新たな施工法を開発



施工中に複数車線を確保するため、多分割での床版取替を可能とする接合構造（モルタル+プレストレス）

■ 床版取替を多分割で行う場合



- 特長**
- 多分割床版の施工に対応
    - ・既存の無収縮干ルタルを採用し、施工性に優れ、コストアップも回避
  - 道路状況に応じた施工が可能
    - ・分割した床版架設の順番を問わない
    - ・車線切り回しの自由度が高まる



# 主要テーマの進捗状況

## PC技術を核とした元請けおよび設計施工案件の取り組み

- PCaPC工法を採用した大型津波避難施設（三重県桑名市）の建設が2022年8月竣工

### 【事業規模】

桑名市津波避難施設

工期：2021年1月～22年8月

規模：21m×24m 500㎡×3層

収容想定人数：1,500人

- 地域の児童を招き、現場見学会を開催し当社や建設業のPR活動を実施



## ZEBへの取り組み

- 2050年のカーボンニュートラル実現に向けた取り組みとして、当社技術研究所のZEB化を実施
- 建築部門のZEBに関する知見を深め、ノウハウを蓄積することで、今後の営業活動においてより具体的な提案が可能となる
- 敷地の狭隘な市街地でのZEB化を想定し、建物単体でNearlyZEB（基準一次エネルギー消費量75%以上低減）が可能な計画とし、BELS認証※2の取得を目指す（2023年5月末完工予定）

※1 ZEB（ゼブ：ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）：省エネや再生可能エネルギーを利用し、一次エネルギー消費量の収支ゼロを目指した建物のこと

※2 BELS（ベルス）：建築物省エネルギー性能表示制度のこと。新築・既存の建築物の省エネ性能を第三者評価機関が評価し認証する制度





# Appendix. ご参考

# 会社概要・沿革

## 会社概要

名 称	株式会社ピーエス三菱
本 社	〒104-8215 東京都中央区晴海二丁目5番24号 晴海センタービル3階 Tel (03)-6385-9111
設 立	1952年3月1日
資 本 金	42億1,850万円
上 場	東京証券取引所プライム
事業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.プレストレストコンクリート（PC）工事の請負ならびに企画、設計、施工監理</li> <li>2.土木一式工事、建築一式工事の請負ならびに企画、設計、施工監理</li> <li>3.土木建築構造物の維持、補修に関する事業</li> <li>4.プレストレストコンクリート（PC）製品及びプレキャスト・コンクリート製品の製造、販売ならびにそれらの製造用具および附属資材部品の製作、販売</li> <li>5.プレストレストコンクリート（PC）工事用機械器具その他建設用機械器具の設計、製作、販売および賃貸</li> <li>6.鉱物の採掘及びその請負</li> <li>7.不動産の売買、賃貸及びそれらの仲介ならびに所有管理</li> <li>8.運送業及び倉庫業</li> <li>9.損害保険代理業及び生命保険の募集に関する業務ならびに自動車損害賠償保障法に基づく保険代理業</li> <li>10.前各号に関連ある一切の業務</li> </ol>

## 沿革

	(株)ピー・エス	三菱建設(株)
1952	東日本重工業（現 三菱重工業(株)）七尾造船所の諸施設及び 従業員を引き継ぎピー・エス・コンクリート(株)を設立	
1960		三菱鉱業(株)ほか三菱系列企業10社が発起人となり、新菱建設(株)設立
1969		三菱建設(株)に社名変更
1989	インドネシアにて合併会社 PT.Komponindo Betonjaya（略称：PT.KOBE）社設立	
1991	(株)ピー・エスに社名変更	
2002	合併により(株)ピーエス三菱発足	
2004	ベトナムにて VINA-PSMC Precast Concrete Co., Ltd .設立	
2012	インドネシアにてPT. Wijaya Karya Komponen Beton社設立	



長生橋（石川県七尾市）

1952年に完成したわが国初のプレストレストコンクリート橋。2001年に河川改修に伴って撤去され、一部が希望の丘公園に歩道橋として保管されている。海岸線近くの立地条件にありながら、撤去時の調査において、驚異的な耐久性が確認された。



# グループネットワーク

## ピーエス三菱グループ（主要国内5社）



- 支店
- ・東京土木支店
  - ・東京建築支店
  - ・札幌支店
  - ・東北支店
  - ・大阪支店
  - ・名古屋支店
  - ・広島支店
  - ・九州支店
- 営業所
- ・28箇所

株式会社ピーエスケー



PC工事における機材の企画・設計・製作・賃貸・販売、資材の製造・販売及びこれらの運用・活用に関するエンジニアリング

株式会社ニューテック康和



道路・鉄道・港湾等の構造物のメンテナンス、リニューアル

ピー・エス・コンクリート株式会社



PC製品の製造販売

菱建商事株式会社



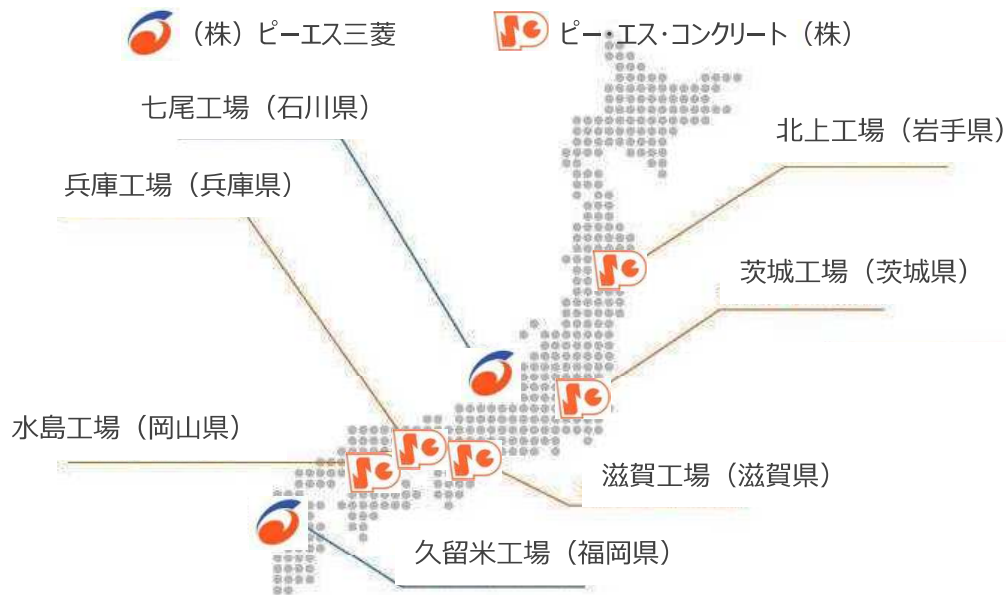
建築資材販売、物流、不動産関連など

菱建基礎株式会社



土木・建築構造物の基礎工事など地下分野の総合専門工事

## 国内工場ネットワーク



## 海外ネットワーク



# 事業構成

## 建築建設事業

【強み】

- プレキャスト（PCa）工法により高品質・高強度の部材を安定的に供給が可能
- 独創的なPC建築から一般建築まで優れた企画提案力で幅広い顧客基盤を持つ
- 三菱グループの唯一のゼネコンとして、高度な技術力により様々なニーズに対応した構築物を提供
- PC工事その他一般建築工事の請負
- PC製品の製造販売

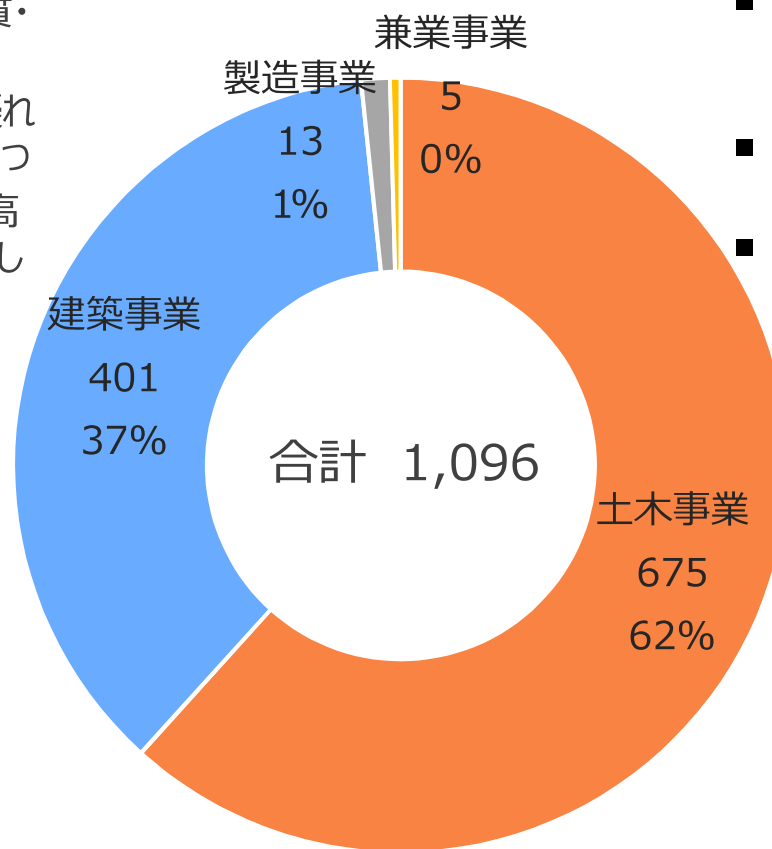


五十嵐電機製作所 新本社ビル

## 製造事業

- コンクリート製品の製造販売

## セグメント別売上高



セグメント別売上高・構成比率  
(2022.3月期 単位：億円)

## 土木建設事業

【強み】

- 日本におけるプレストレストコンクリート（PC）の実用化に初めて成功し、PCのパイオニアとして、多くの橋梁施工実績
- PC業界のトップランナーとして、多くの技術を開発し、国土基盤の整備に貢献
- 鉄道・空港・港湾・橋梁下部工・上下水道・発電所・防災などPC橋梁のみならず、様々な土木全般の事業を展開



新名神高速道路菟野第二高架橋他3橋  
(PC上部工) 工事

## その他兼業事業

- 不動産の販売・賃貸・仲介
- 損害保険代理店事業

# プレストレストコンクリート（PC）技術とプレキャスト（PCa）技術とは

## プレストレストコンクリート（PC）とは

PCは「高強度の鋼材によって、あらかじめ（プレ）応力（ストレス）を与えられたコンクリート」のことです

- コンクリートの最大の弱点である“引張には弱い”を克服することができます
- 圧縮する力を与えることで、大きな引っ張る力が作用してもひび割れを制御することができます
- 上記により、梁の高さを抑えながら、その長さを大きく取ること（大スパン化）ができます



## プレキャスト(PCa)とは

現地以外の工場などで、あらかじめコンクリート部材を製作することです

- 工場生産されるため、高品質・高精度で、高耐久を有しております
- 現場で型枠を組みコンクリートを施工する場合より、騒音や粉じんの発生を抑え周辺環境に優しい工法です
- 工場部材を製作する為、現場作業の省力化・スピード化が図れます



# DXに対する取り組み

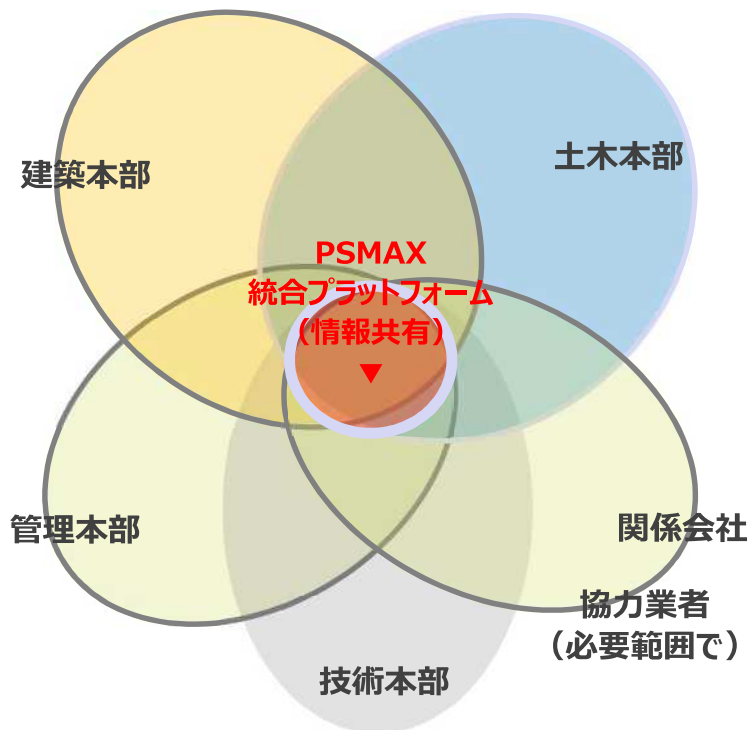
## 全社横断的組織により生産性向上に向けたシステム構築を推進

- デジタル技術の活用によって、建設事業やビジネスモデルを変革
  - 生産性向上、企業の社会的責任（CSR）
- 全社横断的組織により生産性向上に向けたシステム構築を推進



**PSM-Advanced Construction System(PSMACS)**  
最大限に進化したピーエス三菱Grの※建設システム

(ICT・AIを活用した情報化と機械化を融合・進化させ、  
当社グループ独自の建設システムを構築する)



### ※ PSMAXの概要

- 1) クラウドを活用したPSMAX統合プラットフォームの構築
- 2) 省力・省人化目的の要素技術による生産性/利益向上
- 3) BIM/CIMの構築と要素技術との連携による生産管理
- 4) 部署内外の情報連携による不適合生産・手戻りの回避
- 5) 共有情報を活用した施工の機械化、工場のオートメーション化



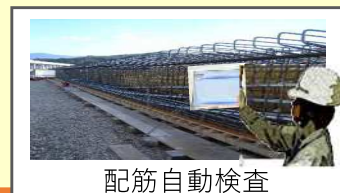
# DXに対する取り組み

## PSMAX システム概要



調査・設計・施工

維持管理



PSMAX統合プラットフォーム

### CLOUD

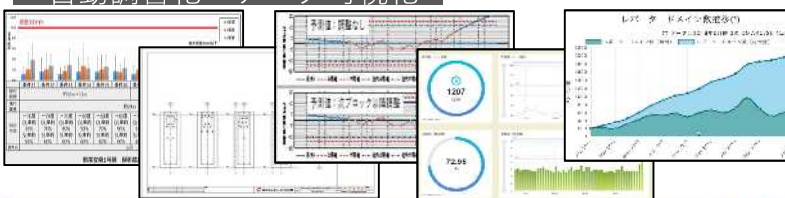
■情報共有  
(収集・蓄積・分析 3Dモデリング)



自動調書化・データ可視化

【本支店・事務所】

モニタリング



【作業所】

レポート共有

モバイルデバイス

# DXに対する取り組み

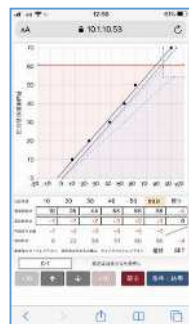
## これまでの取り組み状況

- 生産性向上に向けた技術開発を推進
  - ― 「PSMAX推進委員会」の開発案件を現場実装へ

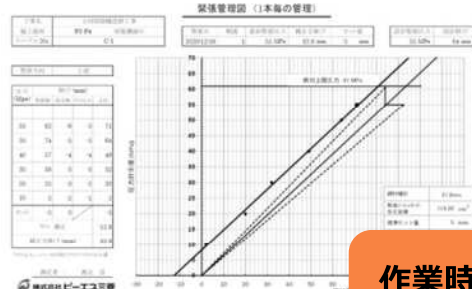


### スマホde緊張！

このシステムは、スマートフォンやタブレットを使用して横締めなどのPC鋼材の緊張管理作業を合理化し生産性向上を図るものです。画面上で緊張グラフをリアルタイムで確認できる他、データをクラウドに保存し緊張結果を管理グラフとしてパソコンから印刷できる。

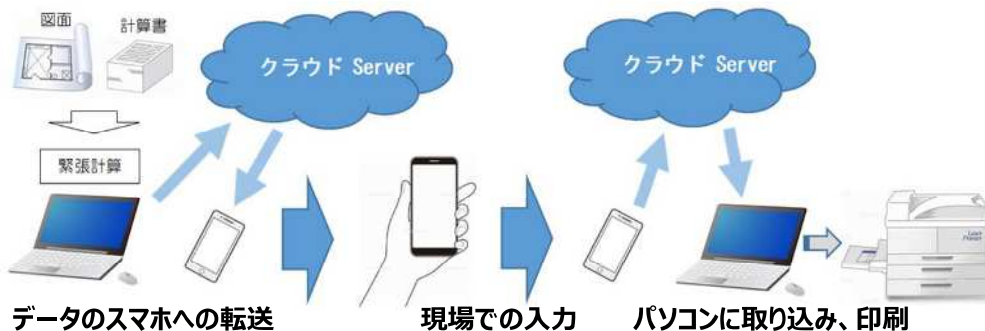


スマホ画面



結果出力例

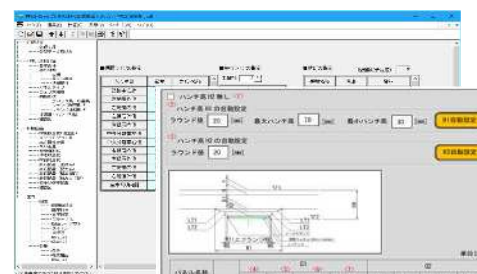
作業時間を  
6割削減



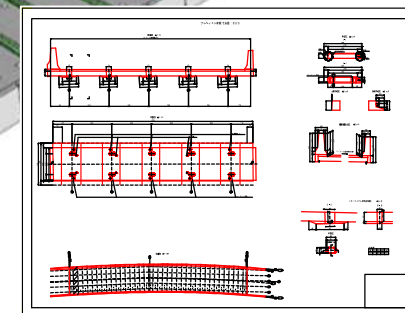
### PCa床版自動製図 システム

高速道路リニューアルプロジェクト工事における床版取替設計の生産性を向上させるため、PCaPC床版の形状を自動決定し、図面化するシステムをJIPテクノサイエンス（株）と共同開発。今年度から実設計に適用しており、当初の想定通りの作図業務を約40%低減することができた。今後、分割断面等に対応できるよう改良を進め、更なる生産性向上を目指している。

→システムの外部販売による収益化を計画



作図業務を  
4割削減



入力画面・出力図面例  
CIM対応を見据え、3Dデータの出力機能も搭載



# ピーエス三菱

P.S. Mitsubishi Construction Co., Ltd.

## 将来予測に関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。また、業績等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、安全性を保証するものではありません。本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。このため、実際の結果と大きく異なったり、予告なしに変更される可能性がありますので、あらかじめ御了承ください。

## IRに関するお問い合わせ先

株式会社ピーエス三菱 管理本部 総務部 広報・IRグループ  
〒104-8215 東京都中央区晴海二丁目5番24号 晴海センタービル  
TEL : 03-6385-8002 FAX : 03-3536-6927 メールアドレス : koho.ir@psmic.co.jp

PR動画はこちらから

